



学校だより

校訓「自律」「友愛」「勤勉」



www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

学楽両道 ～抹茶よりも濃く今しかできない輝く修学旅行を～



11月24日(日)～26日(火) 2年生は、学級・友達と共に取り組んできた京都・奈良方面への修学旅行が無事終了しました。修学旅行実行委員会を中心に、目標、約束事、見学コースなどを、時間をかけて話し合い準備を進めてきました。2泊3日の間は、天候にも恵まれ、学校の中では学べないことを自分の体で感じ、多くの事を学んで帰ってきました。また、班員、仲間との絆を更に深め、楽しい思い出をつくることができました。

修学旅行の2日目の朝、私たちは金色に輝く美しいお寺に思いをはせながら、一番前で門が開くのを待っていました。天気は絶好。待つこと10分弱。ようやく門が開き入ることができました。くねくねした砂利道を早歩きし、木々が開けると…池の奥の方に輝く金閣寺が!ご対面の瞬間でした。 2組生徒



薬師寺で聞いた住職さんの話がとても面白かったです。ここで心に残ったのは、教科書では教えてくれない面白さを自分自身で見つけること、旅行も楽しいものにするかつまらないものにするかは自分次第ということでした。日頃の生活でも取り入れていこうと思いました。 1組生徒

今回の修学旅行では感謝の気持ちを伝える場面が多かった。例えばお土産を買って袋をもらうとき「ありがとうございます」という感謝の気持ちを言うことで自分自身が気持ちよく、多分相手も気持ちよくなっていると思った。 4組生徒



3日目に淡路島に行って当時被災した人の話を聞き、実際に経験した人の話だからこそその震災の恐ろしさや生々しさを感じることができました。 3組生徒

の感謝のことばや礼儀マナーをもって過ごすことでとても幸せな2泊3日の修学旅行でした。

人権学習

12月4日～10日は人権週間です。私たちは誰もが差別を受けることなく、自由に、人間らしく生きていく権利「人権」をもっています。すべての人が自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができることです。人権を守り合う、お互いに尊重し合う学級・学年・学校にしましょう。

12月9日（月）～13日（金）朝自習の時間に「明日への伝言板」を放送します。

拉致問題サミットで生徒が参加して感じた作文を紹介します。

「自分ごと」が第一歩

1年生生徒作文

「日本は拉致に対する守りが甘い」これは私が参加した拉致問題中学生サミットで横田めぐみさんの弟、横田拓也さんが話された一番衝撃を受けた言葉だ。

拉致問題について全国の中学生が全員知っているかと言ったらそうじゃなくて、ただ一部だけが訴えているという日本の現状はあまりにも悲惨で受け入れがたい事実だった。私は、このサミットがなければ自ら拉致を知ろうとも思わなかったし、同じ年の人が拉致されていたことも知らなかった。

『拉致問題は「自分ごと」として受け入れなければならない』そう思った最大の理由は、もしも急に親が、弟が、友達が居なくなったら……と考えた時、背中がゾッとしたからだ。すごく怖かった。

けれど拉致は実際、それ以上に先が見えない。まだ生きているのに、会えるかもしれないのに会えない。もうすでに親世代の方々に拉致された方に会えず、生涯を終えた人もいると聞いた。

会えずに終わるのなんて未練がありすぎる。

「拉致問題」これは日本が向き合う問題だ。いま私の住む地は自由の国だ。伝えようと行動できる。拉致を知ろうと情報を集められる。拉致に対する理解が広まっていくよう私はこれからも拉致を「自分ごと」として考え、伝えていきたい。それが一人でも多くの人に安心する居場所をつくれる行動だと信じて。

そして、「自分じゃなくて良かった。」「かわいそうな人がいる。」とかそこで立ち止まるのではなく、私も一緒に解決に向けて動きたい。